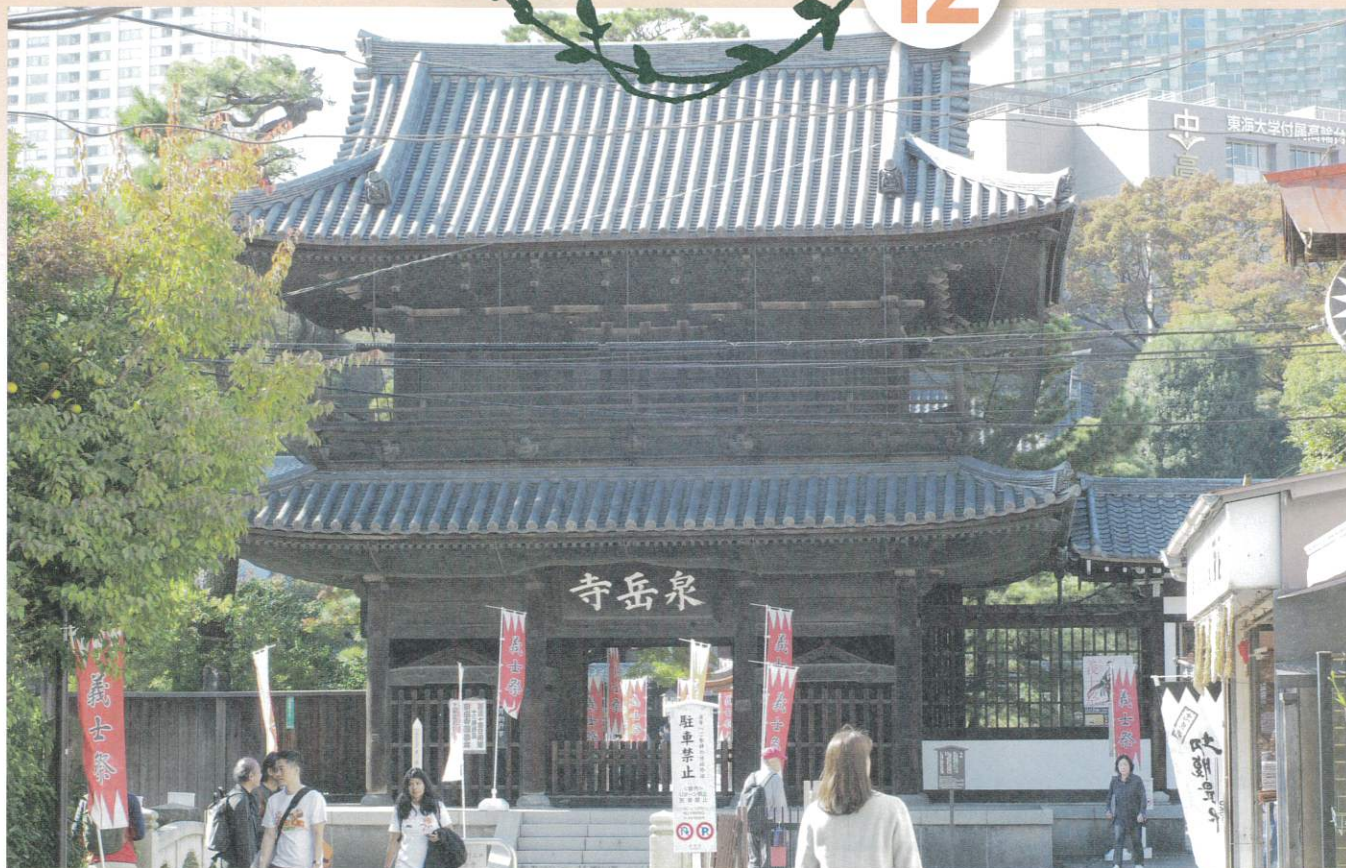


〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
発行人 山崎 哲
編集長 仲井 真裕
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる



泉岳寺(港区)

ランドマーク 泉岳寺(港区)

泉岳寺は港区高輪にある曹洞宗のお寺です。慶長17年(1612年)、徳川家康の命により創建されました。忠臣蔵で有名な赤穂浪士とその主君、浅野長矩のお墓があり、12月12日～14日には赤穂義士の誠心や武士道を称え供養する、「赤穂義士祭」が行われます。

西徳寺の予定

12月

- 7日(日) 午後2時半 **中央ブロック会間法会**
場所:西徳寺
- 13日(土) 午後5時半 **同行会「和讃」に学ぶ**
法話:山崎住職
- 16日(火) 午後4時半 **燈虹塾セミナー**
- 17日(水) 午後1時半 **婦人会間法会**
- 27日(土) 午後2時 **定例間法会**
- 31日(水) 午後3時 **歳暮法要**

※予定は変更することがあります。詳しくは寺務所までお問合せください。

1月

- 元旦(木) 午前7時 **修正会**
- 17日(土) 午後2時 **定例間法会**
- 18日(日) 午後3時半 **評議員会新年会**
- 24日(土) 午後5時半 **同行会新年会**
- 25日(日) 午前11時 **婦人会新年会**
- 31日(土) 午後3時 **燈虹塾セミナー**



12月の山門の言葉

選択肢が多いほど、縛られる

今年も残すところ一カ月となり、何となくそわそわしてくる。年末年始の過ごし方を考えると、落ち着かない人も多いのではないだろうか。実家への帰省や家族旅行、何もせず家でゴロゴロして過ごすということもあるだろう。また、インターネットで検索すれば、もっと多くの候補が見つかるかもしれない。

いずれにしても、いくつかの候補の中から最適なものを選ぶということになるが、そこにはどうしても「迷い」が付きまとう。「あれもしたい、これもしたい」と、一つに決めるのが意外と難しい。選択肢が多ければ多いほど良さそうに思うが、実はそうではないのかもしれない。

その要因となることを、仏教では「我執」とか「我愛」という言葉で明らかにされるが、私たちの在り方を言い当てた言葉である。

それは、常日頃から私自身に執着しているすがたであり、端的に言えば、自己中心的な在り方だと言える。「自分にとつて不都合にならないように、自分にとつて得になるように」という思いが中心の在り方である。

それゆえ、「あれか、これか」と迷い、気づいてみれば私自身の思いに縛られているということになる。まさか自分自身に縛られ振り回されていたとは思ひもよらないだろう。無自覚であるがゆえに厄介な問題だ。

仏さんは、そのように迷ったり悩んだりする私たちを見放さず、原因をはっきりと照らし出し、また同時に、自我に縛られる私たちを解放せしめんと願って下さっている。

その願いを受け、応じていくことが、私たちが歩むべき道ではないだろうか。

(大橋 伊知郎 記)

顧問のカレンダーに聞く

確かなものは

今もはたらき

如来の本願力

確かなものが私の中にあるでしょうか。親鸞聖人は私たちのことを煩惱具足の凡夫と言い当てられます。不確かなものを確かなものとして、掴んで離さない凡夫に、南無阿弥陀仏という六字の名号が勧められているのです。

真に私を支え、私を目覚めさせる如来の本願力。絶えず呼びかけ続ける本願を聞くのは今なのです。



For certain, the power of the Tathagata's Primal Vow is working right now.

うばだいしゃ ～共悩共歩～ テーマ「時代」

優婆提舍(うばだいしゃ)論議の意。
経説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。
(例:浄土論=無量寿経優婆提舍願生偈)

今回は、鉛筆画家である安住孝史先生にお話を伺いました。安住先生は西徳寺の近く、台東区千束の地でお生まれになりました。当時西徳寺では子ども会のような催し物が開かれていたそうで、よく境内で遊ばれたそうです。なお、本堂令和大改修趣意書の表紙に本堂の絵が描かれています。これも安住先生の作です。

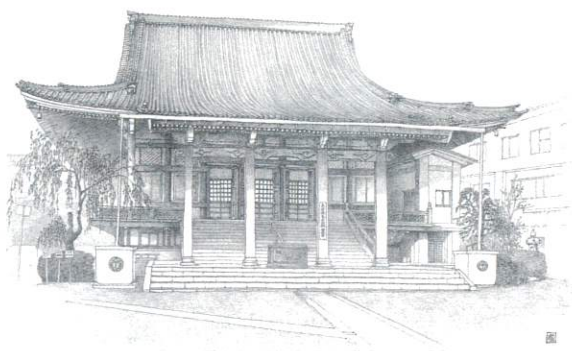
●鉛筆を選んだ理由

鉛筆画家っていないんですよ。僕が初めてじゃないかな。鉛筆は人に優しい材料で、誰でも描けるでしょ。紙と鉛筆があれば描けるなんて、ほかに無いよ。鉛筆という、どこにでもある筆記具を、油絵や日本画の画材に負けない画材として扱うのは、技術もさりながら絵に対する思いの深さです。

そこに行きつくまでに、「優しさ」と言っただけでも、僕は優しくされなかった。だから僕の絵のテーマはやさしさと差別をしないという事なんです。

●絵は言葉

作曲家のショパンが、「ピアノは私の心を伝える言葉だ」と言ったというんだけど。僕もね、僕の鉛筆画は、僕の想いを伝える言葉なんです。今の時代、自分だけ分かればいいみたいな、独りよがりな言葉がいっぱいあるでしょ。言葉というのには、僕の想いがあなたに伝わらなければ意味が無いの。それは絵描きだけじゃない。お坊様もそうなのよ。



安住先生作による本堂

●人生画を描きたい

鉛筆は誰も気にしないもの。だからこそその鉛筆で、丁寧に描きたいと思っています。そして、僕の絵の描き方は、中心から描くんじゃなくて上から描くんです。一回描いたら描き直しはしません。人生と同じ、後戻りできない。人生は消せないから、戻れないから、描き直しはしません。人生に対する畏敬の強さを表したくて。だから僕の鉛筆画は人生画でもあるんです。

今年88歳になったんだけど、絵描きとして88歳でなければ描けない絵があると思う。普通はリタイアする年なのかな。だけど死ぬまで、こういう絵描きもいるんだよ、という姿をこれからも見せていきたい。絵は上手下手じゃない、良い絵は心がこもっているかどうかです。

(聞き手 高橋 淳)



安住先生(右)と



様々な作品を紹介していただきました

城東ブロック会聞法会

10月26日（日）城東ブロック会聞法会が初めて松戸の地、松戸市民会館にて開催されました。

城東ブロック会はしばらく善導大師がお説きになられた二河白道について学んでいるのですが、大谷最高顧問からは、「私のいのちは私のものではない、ということをお教えて下さるのがナンマンダブツであり、白い道である。」と教えていただきました。

懇親会の席では、津川副会長のはからいで美味しいお料理屋さんを紹介していただき、一同大満足な時間を過ごすことができました。（担当：高橋 淳 記）



城北ブロック会聞法会

11月16日（日）、西日暮里にある酒処 一合に於きまして、城北ブロック会聞法会を開催いたしました。

テーマは“楽も苦もどちらも苦しみ”。担当より、「満たされないイタチごっこの願望、煩惱しか出ない口から念仏が出る。宿業という歴史的な営みからいただいた、このいのちに帰る言葉に尋ねよと促されている」と話し、大谷顧問からは、「信じるというのは麻薬のようで、自分に酔う危険性がある。疑いを縁とするのが聞法の要だ」とお話いただきました。

懇親会は初参加の方も含めて、時間が足りないほど盛り上がっていました。

次回は3月8日（日）、北区王子での聞法会を予定しております。お気軽にご参加ください。（担当：仲井 真裕 記）



燈虹塾 贈呈式・基調講演

今回は橘流寄席文字・江戸文字書家である橘右之吉さんたちばなうのきちをお迎えして基調講演を行いました。橘右之吉さんには当塾創成期にロゴを作っていただき、今までの感謝を込めて感謝状贈呈式も併せて行いました。

右之吉さんからは「つらくてもやり続けていくことが、やがて伝統となるんです」とお話くださいました。同じことを繰り返す中で気が付けば手を抜いてしまう我々ですが、それと同時になぜと問い、その意義を考える機縁となるのだと聞かせていただきました。

（高橋 淳 記）



西徳寺報恩講

11月1日(土)・2日(日)の2日間、西徳寺報恩講をお勤めいたしました。この度は滋賀県米原市仏道寺住職の竹林栄哲布教使をお招きし、ご法話を頂戴いたしました。

竹林布教使から、お念仏とは唱えるではなく称えるであり、私の願いをかなえてもらう手段ではなく、阿弥陀仏からの願いを聞く人となることである。さらに私に与えられたいのちを精一杯生き尽くしてほしいという、阿弥陀仏の願いを聞き、自力を尽くしていくことが大切であると教えていただきました。(蓮井 邦宗 記)

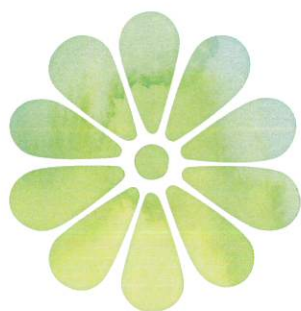
改めて真宗門徒にとって「報恩講」は一番大切な法要です。来年は10月31日・11月1日に勤修いたします。引き続き竹林布教使にご法話を頂戴する予定です。共に聴聞いたしましょう。山崎住職



竹林布教使



御伝文拝読



合唱団エコー



仏具磨き

10月22日(水)、報恩講に向けての仏具磨きをしました。前回に続き、今回も冷たい雨の中での開催となりましたが、有志の方にお手伝いをいただき、仏具が綺麗になりました。おかげさまで、ピカピカの仏具と共に報恩講を勤めあげることができました。お手伝いいただきました皆様、ありがとうございました。

(大谷 隆 記)



えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

北海道 大光寺 様

滋賀県 佛厳寺 様

台東区 森下 幸雄 様



内愚外賢

～賢者の信を聞きて、愚禿が心を顕す～

コンビニに買い物へ。お会計でレジの機械にお金を入れると、機械の中でお札が詰まってしまったようで、エラーが出ました。店員さんがやって来て、マニュアルを見ながら無言で機械を操作しだします。15分ほど待たされ、ようやくお会計は済んだのですが、私の心が狭いのか、「謝らないんだあ」と帰り道をモヤモヤしながら歩きました。

また先日、北海道から友人が遊びに来てくれ、東京を案内しました。電車も船もスイカ、ホテルも機械でチェックイン、レストランも店によってはロボットが配膳をしてくれます。便利になるのは良いことですが、全く人と関わらずに過ごしてしまうことに怖さを覚えました。

様々なものが機械化していますが、人間らしさだけは失いたくないと感じる今日この頃です。

(編集長 仲井 真裕 記)



お台場のガンダムと友人

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ saitokuji@ce.wakwak.com
🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook